報告　「市民と図書館の未来プロジェクト」

報告者　西村優子氏
市民と図書館の未来プロジェクトチーム
瑞穂町図書館

1.「市民と図書館の未来プロジェクト」とは

日本図書館協会は、1968 年から「公共図書館振興プロジェクト」を推進し、その成果の一つとして 1970 年に『市民の図書館』を発刊しました。同書は、戦後の公共図書館の転換となった 1963 年の『中小都市における公共図書館の運営』(中小レポート)、そして 1965 年に移動図書館車からサービスを始めた日野市立図書館の活動の躍進をベースとして、公共図書館が住民にどのようにサービスを提供すべきかを具体的に提示しました。

その後、高度経済成長期の日本経済を背景とした自治体状況において始動した図書館行政は、1980 年代の地方行革や 1990 年代の生涯学習社会への移行といった時代の変化の中においても、着実に発展を続けてきました。しかし、世紀が変わり、社会の価値観の多様化や情報環境の激変、公共政策への市場参入など、図書館を取り巻く環境は大きく変化しています。

21 世紀の四半世紀を経た現在、『市民の図書館』とその実践が形成した公共図書館のパラダイムを客観的に認識し、時代状況に合った公共図書館政策論が求められています。

そこで日本図書館協会は、新たな時代の公共図書館政策論を模索するため、未来に向けた図書館振興プロジェクトとして、「市民と図書館の未来プロジェクト」を立ち上げ、その活動の成果を基に新たな公共図書館政策論を提起していきたいと考えています。

◎プロジェクトメンバー(50 音順)

石川敬史(十文字学園女子大学)　小澤多美子(長野県)　呉屋美奈子(恩納村)
是住久美子(田原市)　澤谷晃子(大阪市)　嶋田学氏（京都橘大学教授・主査）
髙橋将人(南相馬市)　西村優子(瑞穂町)　丸山直也(山梨県)　村上さつき(松戸市)

2.プロジェクト発足の背景

◎現代社会の変容と図書館を取り巻く課題

・情報環境の激変
・社会構造の変化
・図書館運営の課題
・社会価値観の多様化
・「これからの図書館像－地域を支える情報拠点をめざして－」(2006 年)
・類縁機関の動向

◎新たな政策提言の必要性

・21 世紀の四半世紀を経て、既存のパラダイムを客観視
・時代状況に合った公共図書館政策論の模索
・厳しい「現実」と、だからこそ掲げたい「理想」の両方を追求するスタンス
・未来に向けた図書館振興プロジェクトとして、新たな公共図書館政策論の提案を目指す

3.これまでの活動

◎内部議論の蓄積

・オンラインミーティング、対面ミーティング(8 回開催)
・各メンバーからの「柱立て」(議論すべき項目）提示と意見交換

・多岐にわたる課題（図書館の役割再構築、市民・地域の再定義、社会変化対応の新たな役割、多様な図書館のあり方など）

◎図書館総合展フォーラム（2025 年 10 月 24 日）
・主な論点
・図書館の多様な関係性
・「市民」概念の再考と対話・参加の促進
・コレクション構築のあり方
・地域性と図書館
・プロジェクトの論点設定と広がり

◎本日の図書館政策セミナー（2026 年 3 月 15 日）

４.現在の状況と議論の焦点

◎論点の整理と「骨子」をまとめる段階
◎新たな柱（現代のパラダイムシフト）
・市民の視点
・情報環境の変化
◎『市民の図書館』からの普遍的な問いかけの再考
・住民が図書館評価に関われる機会の創出
◎「新しい目標」の設定
・1970 年版の「三つの目標」を参考に、分かりやすく共感を呼ぶ目標を設定
◎具体的な提案例
・「デジタル・ローカル・ライブラリー」
・「地域・協働と参加」
・「人・資料・情報・場」など
◎骨子作りの重点項目
・図書館の基本機能の明確化
・地域資料・ローカルアイデンティティの重視
・理想と現実への対応
・市民と図書館の相互主体的な関係性の再定義
・デジタル社会へのコミット
・誤解のない強いメッセージと実践的な基準の提示
・図書館のなかの議論に留まることなく、幅広い分野からの意見聴取

５.今後の展望と目標

◎社会との対話と開かれたプロセス重視
◎広報広聴
・図書館雑誌や図書館大会などの機会を活用して情報発信、意見聴取
・プロジェクトのウェブサイトや JLA の SNS を通じて継続的な進捗公開
◎最終目標
・政策提言としてまとめ、成果物を公表